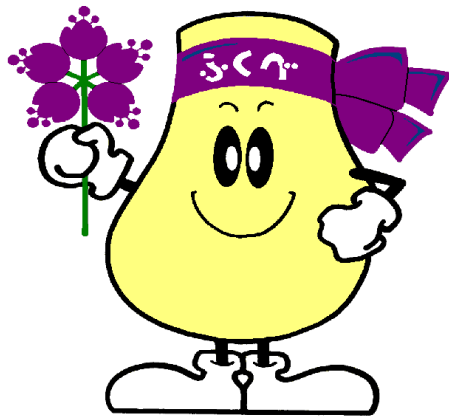


鳥取C班

チーム福部町活性化

「新生! ふくべ町」



文学部 3 年・三島大輝



情報コミュニケーション学部 3 年・加藤沙希



農学部 1 年・平野美和



政治経済学部 1 年・白井源太郎

《目 次》

□はじめに 2

福部町の概要説明と地域活性化案作成の方針

□調査内容と提案内容

1. 「鳥取ふくべ町検定」について 3～7

2. 砂丘を活用した提案について 7～9

3. 特産物を活用した提案について 9～13

4. 歴史的・文化的名所を活用した提案について 14～16

□おわりに 17

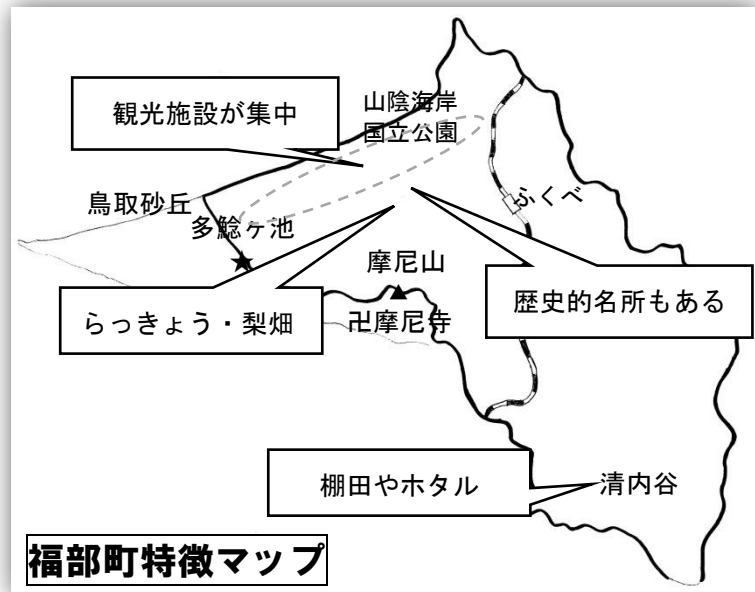
学生派遣プログラムを振り返って

表紙

らっちゃん：福部地区公民館 [<http://chiiki.city.tottori.tottori.jp/fukube-1/syukai.html>] より（最終アクセス日：2014/09/29）

はじめに

福部町は元々福部村であり、平成 16 年の合併によって、鹿野町や佐治村をはじめとする町村とともに鳥取市の一部となり、福部町となった。この地域の海岸線には、鳥取県のシンボルである鳥取砂丘が広がり、その地域に生息する動物や植物、多鯨ヶ池などの自然環境を包摂した山陰海岸ジオパークとして認定されている。加えて、観光客向けに砂丘地域の解説を行っている鳥取砂丘ジオパークセンターや砂像を展示した砂の美術館、家族で楽しめる鳥取砂丘こどもの国などの観光施設群が集まり、いわば砂丘を核に据えた観光事業を展開している。むろん、砂丘以外にも、摩尼寺や歴史に名を残した文学者たちの歌碑などの歴史的・文化的名所も点在している。



他方、特産品では、砂丘の地勢を活かして栽培されたらっきょうや、最近になって新たな品種づくりが進められている梨が有名であり、時期によっては畑での農作業風景を眺めることができる。

今回、私たちのグループは、この福部町を舞台とする地域活性化案を考えた。福部町を選択した理由には、事前調査を進めていく中において、先にも紹介したように、この町には魅力ある観光資源や、誇るべき産業、そして興味深い歴史があることに気付き、それらを最大限に活かした地域活性化の実現に、大きな可能性を感じたことが上げられる。

したがって、私たちが作成した地域活性化案は、数ある既存の資源や、これまで福部町の方々が取り組まれてきた地域活性化の活動に、新たなアイデアを加えることによって、今までとは一味違う「新生ふくべ」のまちづくりを実現させることを基本方針とした。

具体的には 3 ページ以降から調査内容とともに提案していくが、今回は①「鳥取ふくべ町検定」、②砂丘を活用した提案、③特産物を活用した提案、④歴史的・文化的名所を活用した提案、の 4 つのテーマごとに紹介する形をとることとする。

【今回調査した主な場所】

福部町総合支所・清内谷方面・多鯰ヶ池・鳥取砂丘ジオパークセンター
砂の美術館・らっきょう加工場・浦富海岸・梨園・摩尼寺・歌碑など

1. 「鳥取ふくべ町検定」について

I 調査内容

以下は、福部村の時代も含めた福部町の人口の推移についての資料である

区分	人口	増減率	少子化の状況		高齢化の状況	
			15歳未満人口	率	65歳以上人口	率
昭和60年	3310	—	703	21.2%	463	14.0%
平成5年	3415	+3.2%	737	21.6%	555	16.3%
平成7年	3526	+3.3%	738	20.9%	621	17.6%
平成12年	3451	-2.1%	600	17.4%	667	19.3%
平成17年	3299	-4.4%	480	14.5%	708	21.5%
平成22年	3262	-1.1%	—	—	—	—
平成26年	3082	-5.5%	350	11.4%	834	27.1%

(平成17年までは国勢調査、平成22年からは住民基本台帳の数値)

昭和30年には3884人だったが、集団就職等により年々減少し、50年には3193人まで減少した。その後公営住宅建設などの人口増加策により60年代から増加し、平成7年には3526人まで回復したが、その後は再び減少傾向にある。平成16年には鳥取市と合併したこともあり、鳥取市中心近辺に流出したためか、平成12年から平成17年にかけての減少率は、平成7年から平成12年にかけての減少率の約2倍になっている。

以上のことから、福部町で生まれた人が都市部に流出していることがわかる。これによる人口減少を解決し、福部町活性化に繋げるために、下記のプログラムを私たちは提言する。

II 提案内容

●「鳥取ふくべ町検定」の実施

(1) 概要

福部町の伝統・文化・魅力を維持・伝承して福部町への愛着心を育むため、また、課題を共有・解決し福部町を活性化する有志を少しでも多く募るために実施する。階級を設け、最上位の級の合格者に「福部町公認ガイド(仮称)」として、福部総合支所長

の名で就任依頼を出す。また、ふくべ楽居大学と連携した福部町活性化ボランティア団体を創設し、そのメンバーとなってもらう。検定対策のための福部町公認テキストも出版し、受験申込書を内封しておく。

今現在「鳥取砂丘検定」が実施されているが、この検定を吸収合併する形で当検定を創設する。

(2) 内容

① 運営

上記した福部町活性化ボランティア団体が主体となって運営するが、初回のみ、福部町総合支所内に対策委員会を設置する。

② 検定料

	3 級(基礎問題)	2 級(標準問題)	1 級(応用問題)
社会人	400	700	700
学生	300	600	600
団体割引(学校)	250	300	300

学生以外は、銀行振り込みとする。

③ 受験システム

初回受験者は必ず 3 級から受験し、級に合格するごとに一つ上の受験資格を得る。

④ 合格基準

各級受験者数の上位 3 割とする。「福部町公認ガイド(仮称)」就任依頼を断る人が出ることを考慮し、端数は切り上げ、少しでも合格者数を増やす。

⑤ 受験申込

受験者を少しでも増やすため、極力簡略化する。学生は学校を通じての申し込みを可とする。個人で申し込む場合は、書店や郵便局を通して申し込む。オンライン受験は、検定公式ホームページから申し込む。期間は、4/1~7/16(7 月前半まで)とする。

⑥ 受験場所

各都道府県の大学、もしくは県庁など多くの人が集まれる場所に一か所ずつ設営する。

⑦ 実施回数・時期・合否発表

一年につき一回、お盆明けに実施し、9/1 に受験者全員に速達で受験結果を送る。オンライン受験者については、検定公式ホームページで合格者の受験番号を全て掲示する。

⑧ 出題問題作成

検定対策公認テキストも含め、有識者が作る。

⑨ 出題内容・試験時間

福部町の歴史・地理・経済(1級のみ)等全般的な知識についての問題を、記述及び四択(少しでもコストをカットするため、専用の読み取り機が必要なマークシートではなく、記号を答案用紙に書き込む形式)で、各級とも合計 30 問出題、試験時間は 50 分、満点は 100 点とする。

⑩ 受験者特典

検定への参加賞として、らっきょうなど特産品を贈呈する。

⑪ 収入活用

検定対策公認テキストの印税や検定料等の収入は、暮らしやすいまちづくりの費用に充てる。この情報はホームページでも公開する

⑫ その他

検定公式ホームページを作り、オンライン受験・申し込みも実施する。この検定公式ホームページへのリンクは、鳥取公式ウェブサイト内の福部町総合支所公式ホームページの中に貼る

鳥取砂丘検定との比較

1. 鳥取砂丘検定よりも多くの受験者を見込むため、受験料が安価になっている
2. 合格基準を一定の点数以上ではなく受験者全体の上位 3 割と倍率固定方式にしたことにより、合格者数がある程度安定する。
3. オンライン受験も可能となる
4. 申し込み期間が長くなり、受験するか否か慎重に考えられるようになる
5. 受験会場が増え、交通費の負担が少なくなる
6. 試験時間、問題数共に減り(基礎問題に相当する 3 級を除く)、負担が軽くなる
7. 対象が福部町全体に広がることにより、より幅広い知識を持った人を集めることができる。

(3) 「福部町公認ガイド(仮称)」の活動内容・時期と給与

① 旅行者への観光案内・誘導

長期休暇期間や大型連休に福部町で観光ツアーを実施し、そこでガイドを務める。

② インターネットを介した、外部への情報発信

今流行中の Twitter や Facebook のような、登録に手数料のかからない SNS を介し、福部町を宣伝する。鳥取県のトリピーのように、福部町のゆるキャラを作り、そのキャラクター名で SNS に登録すると、なお話題性が上がるだろう。

③ 小中学校での郷土教育

福部町出身の人が、たとえ都市部に出てしまっても将来的には福部町に戻ってきて福部町のために尽力してくれるよう、地元愛を育むために、義務教育を受けている小

中学生に、社会科教育の一環として郷土教育をする。特に中学生には、実践授業として、実際に活性化案を考案してもらう。頻度としては、一学期につき一回くらいが適切であろう。

④ 福部町活性化のための会議

いくら福部町に強い関心のある人が集まっても、それによって福部町が活性化しなければ意味がない。よって「福部町公認ガイド(仮称)」は決算期の2、3月に議会と合同で会議を開催し(もしくは議会に参加し)、福部町活性化の長期計画や短期(一年)計画を立てる。

⑤ 一人一人が、「福部町公認ガイド(仮称)」の後輩養成

「福部町公認ガイド(仮称)」に任命された人は各自日程の合う日に福部町に合計365日赴き、ガイドの先輩から上記の仕事をするための、実習も交えた指導を受ける。なお、5日間以上の滞在が可能な場合は、宿泊費を一泊分にする。但しボランティア団体なので、交通費の支給はできない。但し初期メンバーは、地元の人に直接指導を受ける。

それぞれの仕事が始まる時期の2週間前にはメールなどで告知し、活動可能なメンバーを集める。1週間前では急ぎすぎるからである。こうした活動を通じ、定住を望む人が増えてくればベストである。

(4) 検定の問題例

3級 四択問題

福部町が鳥取市に合併されたのはいつか

- A) 2000年
- B) 2004年
- C) 2005年
- D) 2014年

3級 記述式問題

福部町の、約100年にわたって続いている産業は何か

2級 四択問題

鳥取砂丘は、都市開発などが進む前は今よりも砂地部分が広がった。今でも、掘ると砂が出てくる場所もある。福部町の中で砂丘になっている部分は、鳥取砂丘全体どの辺りに当たるか

- A) 中心部
- B) 西部
- C) 東部
- D) 北西部

2 級 記述問題

福部町内で栽培されている、二十世紀梨の最新品種の名前を答えなさい。

1 級 四択問題

福部町について正しい記述はどれか

- A) 福部町は歴史的価値の高いお寺や史跡を数多く抱えているため歴史散策ツアーが定期的に開催されており、中高年の観光客が非常に多い。
- B) 鳥取市とは近いので、最近ではベッドタウンとしての役割も果たしており、人口推移は 10 年前からほぼ横ばいである。
- C) 二十世紀梨の最新品種、新甘泉は栽培過程では、これまでしてこなかった作業をしなければならず、高齢化の激しい福部町では栽培されていない。
- D) 福部町の山奥の方の人口は、日本で屈指の少なさである。

2. 砂丘を活用した提案について

I 調査内容

事前調査にて鳥取砂丘周辺を訪れた。まず我々は「鳥取砂丘ジオパークセンター」を視察した。ジオパークガイドの方が 風紋の生成の方法やスリバチのでき方について風紋発生実験風洞装置という大型な模型を使い解説を受けた。

横1メートルほどの砂丘の模型には、風を送るファンと太陽の代わりをするライトが昼と夕方の角度で取り付けられており、砂丘の表情が自然条件により次々と移り変わる姿を再現できるようになっていた。風紋が形成されていくところを、間近で見て興味がわいたとともに、ガイドの話す姿が生き生きとしていて、大人から小学生の子供まで気づけば皆笑顔になっていた。

続いて、砂丘を訪れた。あいにく、無風の日だったため風紋を見ることはできなかったが、夕焼けに赤く染まった砂丘はとても美しかった。年間を通して様々なイベントを開催するなど、観光客誘致も活発に行われており、観光客数は年によって差はあるが、年間約 130 万人もの観光客を集めている。

最後に「砂で世界旅行・ロシア編」開催期間中の砂丘美術館を訪れた。彫刻の世界に引き込まれてしまいそうなほどダイナミックで、はたまた、今にも崩れてしまいそうな繊細な彫刻があった。圧巻の一言だった。芸術が好きな人も、そうでない人も、一生に一度は足を運んでみる価値は大いにあると思った。

事前調査を行って見えてきた問題点

(1) ジオパークガイドの方にお話をお聞きし、いま砂丘が危機的状況にさらされていることが判明した。それは、砂丘の草原化である。事の発端は1970年ごろに外来植物が砂丘に根を張り始めたことで、砂の移動が減少し風紋が見られにくくなるなどの景観を損ねる問題が発生しているという。ひどいときには砂丘の半分近くが雑草などで緑に覆われるまでになったそうだ。

そこで鳥取砂丘再生会議事務局は、除草作業をするボランティアを募り砂丘を守る取り組みが行っているのだが、雑草の生長に作業が追い付かず果てている様子だ。



画像参照 鳥取砂丘再生会議
2014年9月23日
<http://www.tottorisakyusaisei.jp/index.php?view=4754>

(2) 鳥取砂丘全て（砂丘・砂の美術館・ジオパークセンター）にいえることだが、関西地方への宣伝は積極的に行っている（看板がいたるところに設置してあった）が、全国へ向けた宣伝はまだ弱い。

Ⅱ 提案内容

(1) 外来の草の問題に関する提案

《たのしんで除草作業をしてもらおう》

ポイント

- ・よりたくさんの人に よりたくさん草を 除草をもらう
- ・理想はお互いにウィンウィンであること

草取りを手伝っていただけるボランティアの方々を除草隊と称す。除草した量を計測し（gを測定または何袋分とったか）何かしらの形で還元する。

還元の形

例 草の3分の1の重さの砂を除草隊は得ることが出来、帰る際にその砂を用いてアーティストが肖像を作ってくれ、持ち帰ることができる。

(2) 宣伝方法に関する提案

ポイント

- ・より広く よりリアルで より新鮮な 情報を発信
- ・コストのかからない方法で

《SNSで宣伝。情報発信者は来場者。》

SNS上でフォトコンテスト開催する。SNS（facebook、twitter、LINE）に鳥取砂丘フォトコンテストのタグをつけて、写真を投稿してくれた人全員に売店で使えるクーポンを配布するなどの特典を用意する。優秀作品を鳥取砂丘ジオパークセンターに展示する。砂丘のHPにアクセスした人の目に真っ先に飛び込む位置に、フォトコンテストに投稿された画像がまとめて見られるよう配置する。

いまや、SNS上の個人のつぶやきは大きな影響力を秘めていることは言うまでもない。そして、運営側が鳥取砂丘の良さを一方的に伝えるよりも、SNSでシェアされた情報はよりリアルで魅力が伝わりやすいことは確かであろう。さらに、来場者がいいなと思った視点を間接的に運営側が知ることによって、これから、どこに重点をおいて誘致を行うか考える際に活かせる。

この提案の一番のメリットは、宣伝にお金がかからない点である。投稿方法がよく解らない、面倒くさいだろうと思う人がいるかもしれない。そんな人のために、簡単で時間がかからずに投稿できるシステムにするべきである。

3. 特産物を活用した提案について

I 事前調査

8月上旬に行った福部町の事前調査では、特産物関連としては、らっきょう畑・工場、梨園を訪れ、調査を行った。そこでは、福部の特産物分野の魅力的な部分を見つけ出すと共に、いくつかの課題や問題点も発見することができた。今後はこれらを解決し、砂丘だけに頼るのではなく、特産物そのものを地域の活性化に繋げていくことが必要である。以下に、特産物分野の特徴と問題点を挙げる。

砂丘らっきょう

らっきょうは砂丘地でも育つということで、観光地としても有名な「鳥取砂丘」の一部を含む福部町にとっては一番のアピールポイントとなる特産品である。福部のらっきょうは砂丘地で育てられるため、他の地域で育てられるらっきょうとは歯触りや色などが異なっている。そういった部分も人気の秘訣となっており、他との差別化をはかることができる。小学校・中学校では給食にもよく提供されるほか、植付け・収穫体験を行っているということで、食に関する郷土教育に大きく役立っているといえるだろう。お土産屋さんでも、多くのらっきょう土産が販売されている。また、今年で福部の砂丘らっきょうは100周年ということで、福部町が誇るべき、歴史と伝統ある特産物なのは間違いない。

<問題点>

1、人手不足

福部の農家一戸あたりのらっきょうの栽培面積は、日本一の経営規模を誇るほど広大なものとなっている。現地調査では、常に作業を行える人は少なく、植え付けの時期になると人手が足りなくなるため、ハローワークで人を集めるとお聞きし、人員不足・後継者不足がかなり深刻なものとなっているという印象を受けた。

2、農業従業者の高齢化

特にらっきょうの植え付け作業などは夏の炎天下の中で行われるため、非常に過酷な作業であり、それゆえ若い労働力は必要不可欠である。

3、知名度（県外への情報発信が足りない）

福部の特産物として最も有力ともいえる砂丘らっきょうだが、やはり鳥取といえば「鳥取砂丘」のイメージが圧倒的に強い。砂丘に負けず劣らず県外の人から興味を持ってもらうためにも、砂丘らっきょうの知名度をよりアップさせるための新たな PR や、愛着を持ってもらえるような機会をつくり出すことが必要である。

梨

鳥取の名産「二十世紀梨」は、昔から鳥取砂丘と共に愛されており、梨狩りが観光の一部に取り込まれてきた。梨は梨狩りだけではなく、のど飴やシャーベットなどにも利用することができ、利用方法によっては今後も大きな可能性が見込まれる。最近では「新甘泉」という新しい種類の梨が開発され、他の梨と比べるととても甘いため、若者に人気であり、鳥取が誇るべきブランドとなっている。

<問題点>

1、梨狩り客の減少

梨狩りは年々客数が減っており、現在は鳥取砂丘とタイアップして梨を売ってもらっている状況となっている。

2、梨園の位置づけ

梨園はこれまで砂丘に立ち寄った人がついでに寄るといったケースが多くみられ、「砂丘のおまけ」であった。梨園自体に興味を持って訪れる人は少ない。

3、PR の仕方がわからない

梨狩りについて知ってもらうことが必要となるが、今は PR が少ない状況となっている。PR しようと考えてはいるものの、若い人が後継者にならないと PR の仕方が模索できない。

以上の問題点を解決するためには、以下の 3 つの課題が重要だと考えられる。

↓↓↓

課題①県内・県外共に愛着を持ってもらう

鳥取県内の地元の人々と県外の人々に、特産物に対して愛着を持ってもらうことが重要。「砂丘のおまけ」ではなく、福部のれっきとした特産物として愛される存在になることが、今後福部の知名度・人気をもっと上げるためにも不可欠である。また、後継者や I ターン住民を増やすためにも重要。

課題②後継者の育成・I ターンの促進・定住促進

人口減少・高齢化の進んでいる鳥取では今後、農家数や後継者が著しく減少することが予想される。早急に若い後継者の育成・I ターン住民などを増やすことが必要となってくるであろう。

課題③PR 方法

らっきょう・梨園共に PR を行っているものの、鳥取のらっきょう・梨が特産物として全国的に認知され有名であるかといえ、そうとは言えない。また、存在を知ってもらうだけではなく、実際に特産物を購入してもらえるような宣伝も必要。SNS やパンフレットなどを利用した新たな PR 方法の模索が必要と考えられる。

II 提案内容

上記 3 つの課題を解決するための提言は以下の通り。

課題①愛着を持ってもらう

- ・大学と連携した特産物販売（らっきょう・梨）

大学と連携して、関東で行われる物産展や大学のオープンキャンパス・学園祭などのイベントを通して、鳥取の特産物を販売する。そのために、連携大学（たとえば明治大学・鳥取大学など）にて大学生を集め、忙しい農家の方々の代わりに販売を行ってもらう。また、地元大学やその他の連携大学の学食に鳥取の特産物を使ったメニューを売り出し、鳥取をとことんアピールする。

→大学のイベントや施設には多くの人々が訪れるため、鳥取の特産物を発信するにはもってこいの場所。地元の若者の郷土愛や、県外の人々の興味関心を高めることができる。明治大学では、学生派遣プログラムに参加した学生に協力してもらうのも一つの手である。

- ・観光地での特産物提供

磨尼寺の近くにある源平茶屋と門脇茶屋が連携して、地元産のらっきょう、梨などを活用した新グルメを提供する。

- ・100 周年記念として、らっきょうコンテストを開催する（らっきょう）

今年で砂丘らっきょう 100 周年であるため、記念としてコンテストのようなイベントを開催。(既にらっきょうのコンテストは開催されているとのことだが、100 周年記念としてより大規模なコンテストを開催してみてもどうか。) 農家、または一般の方が福部のらっきょうを利用した加工食品や料理を発表し、お祭りのように屋台で販売。来場したお客さんにどの屋台のものが一番美味しいか選んでもらう。上位入賞者には賞金を与える他、1 位に選ばれたものは郷土料理・お土産を提供するお店などで商品化する。また、コンテストの結果や様子などを写真付きで SNS に投稿し、100 周年の宣伝も行う。

→福部のらっきょうの大量消費にも繋がるし、大きくイベント化することによって人々の興味・関心を大きく惹きつけることができる。商品化することによって、後に鳥取を訪れる観光客も食べられるようにして、その美味しさを味わってもらおう。イベントを通して「地産地消」を実現させることができる。

集客のために、来場者全員に特典として限定のオリジナルグッズをプレゼントする（例えば、鬼太郎のクリアファイル等）。

課題②後継者の育成・I ターンの促進

・郷土教育の強化

後継者になる人材の一番の候補は、現地で育った子供たちである。小学校・中学校では現在給食で特産物が提供されており、らっきょうの植え付け体験も行われている。これを毎年全学年で行なったり、植え付けだけではなく全ての作業を体験、調理実習で特産物を使った料理を作るなど、より本格的な郷土教育・体験を目指す。

→子供たちにらっきょうへの愛着をより持たせることで、受け継いでいかなければという、ちょっとした義務感を持たせる。

・I ターン促進

実際に福部町でらっきょう畑を持ち、作業していくとはどういうことかを、I ターンに興味がある方たちに伝えるために「らっきょう I ターンプログラム」を行う。これからどこかの地域に I ターンをして農業を始めようと考えている若者を対象に SNS や web サイトで宣伝し、参加を促す。プログラムの中ではらっきょう農業経営のノウハウのレクチャー、実際にらっきょう栽培の作業を体験、農家の方と I ターンを考えている人々の交流会を行う。また、もしその中に I ターンを決心した人がいれば、らっきょう農家のベテランの方にアドバイスやサポートを行ってもらおう。可能であれば、農業経営のための支援金も。

現在お試し定住のための住宅の提供を行っているということで、その住宅を I ターンプログラムにも利用することもできるだろう。

課題③PR 方法の模索

・SNS を利用した PR

Twitter や Facebook などの SNS を利用し、らっきょうと梨の栽培・商品の情報やらっきょうの花の様子、特産物の豆知識、特産物を扱うお店の宣伝などを頻繁に行う。関係者の中に SNS に強い人がいない場合は、SNS を使い慣れている地元大学や地元高校の学生に協力してもらい、実際に発信してもらったり、使い方をレクチャーしてもらい、関係者が PR 力を高めていく。らっきょうのキャラクター（ゆるキャラ）を SNS での発信の際に積極的に利用するのもよい。

→SNS は強力な拡散力と情報が多くの人の目に入るという点で、PR を行う際には非常に役立つツール。

また、SNS を使った PR 以外でも、学生に協力してもらいながら PR を行なっていくことは良いことだと考えられる。若い人達にも興味を持ってもらうためには、同じ年代の視点から PR を行っていくことが必要であるし、対象が若い人でない場合も、斬新な考えを生み出せる学生達の力は大きく役立つ。

・観光パンフレットに特産物・お土産情報を記載

観光客や県外の人がよく手に取るのが、観光向けのパンフレットである。それにらっきょう・梨の情報や、お土産とその販売店の情報を載せることによって、県外の人々が特産物を知るきっかけになると同時に、お土産も購入してもらえる可能性が高まる。

→現地に来た人が駅や観光案内所、ホテル、役場に寄ることもよくあると思われるため、そのような場所にパンフレットを置いておくことによって気軽に手に取ってもらうことができ、魅力を知ってもらうことが可能。鳥取の観光サイトにてパンフレットをダウンロードできるようにすれば、更なる知名度アップに繋がる可能性がある。



らっきょう畑の様子

4. 歴史的・文化的名所を活用した提案

I 調査内容

「はじめに」でも少し触れた通り、福部地域には目を見張るべき歴史的・文化的名所がいくつか存在し、改めて町の持つ歴史を感じる地域であると気付かされる。その中で、事前のグループワークの段階では、多鯰ヶ池と摩尼寺を調査地としてスケジュールに組み込んでいた。しかし、8月5日（火）に行われた調査地を案内してくださる方との打ち合わせの結果、弥長神社や一ツ山・二ツ山、そして歌碑などが調査地として新たに加えられた。

これらの調査地に共通して言えることは、歴史的・文化的名所としての観光資源として活用する価値があるということだ。たとえば、京都をはじめとする古都を旅行等で訪れたときに、様々な寺社仏閣などに対して荘厳な雰囲気や文化が織り成す美しさといった魅力を感じるような経験は、おそらく多くの人々が経験しているはずである。このことは歴史や文化が詰まったものには、何か人々の心を引き寄せる力があることを意味すると考えられる。しかしながら、福部地域の歴史的・文化的名所に対する観光客の興味・関心の度合いは、総じていまひとつなのが現状であるという課題が、現地調査を通じて浮かび上がった。

たしかに、単なる歴史や文化への魅力だけから人々が注目するということではない。京都のように史跡が世界遺産に指定されていたり、あるいはテレビや新聞、学校で使用する教科書等によく紹介されたりすることが契機となって、知名度が上昇し、多くの人々が足を運んでいるという事実を踏まえれば、福部の歴史的・文化的名所と京都のそれとを同様に考えてはならない。だが、歴史的価値を持つという点では同じであるから、問題は、いかにして人々を引き付ける方法を打ち出すかという点である。この場合の人々は、観光客を指すが、観光客がまず頼りにするのが何と言っても見どころなどの情報が掲載されたパンフレットである。このようなパンフレットの類は、観光客が多く集まるような駅や中心的な施設にて配布されることが多い。

私たちが今回手に入れたパンフレットは、鳥取砂丘ジオパークセンターが配布しているものであるが、見てみると確かに史跡の案内も載っているが、やはり砂丘関連の自然や施設の紹介がメインに据えられているのが印象的であった。それに関連して、案内して下さった方の話では、現地を訪れた方から歌碑はどこにあるのですかと聞かれ、案内したということがあったそうだが、このような例からもわかるように、名所の宣伝方法はもちろん、場所の明確化やガイドの実施などの課題が見えてくる。

他方、町民の方々が、自分たちが住んでいる福部町の歴史や文化を再発見するために、また、地元の児童・生徒が、学校での社会科や総合学習の一環としての学びの教材としても活用することも可能であると考えられる。実際に、前者は過去に町民を対象とした「ふくべみてあるき」などのツアーが実施されたことが分かったが、最近ではほとんど行われ

ていないのが現状である。

したがって、以下に調査内容を踏まえた上での提案内容を紹介する。

II 提案内容

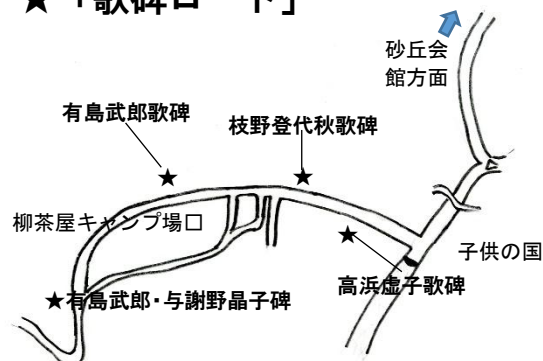
①「鳥取ふくべ町検定」の合格者によるガイド活動―「ヒストリーツーリズム」の試み

「1. 鳥取ふくべ町検定」の提案内容が実現できれば、新たなガイドが誕生する。そのガイドたちが、歴史や文化的名所を紹介できるように説明方法や専用のパンフレットを整えておく。そうすれば、福部地域を訪れた人々が砂丘とはまた違った福部の奥深さを感じることができる。これは、地域の歴史と文化に親しみを抱いてもらうと同時に、生涯学習の機会を人の手で提供する「ヒストリーツーリズム」である。

②「歌碑ロード」としての宣伝と短歌・俳句募集の取り組み

①に関連して、具体的な例を挙げるために福部を象徴する歴史的・文化的名所として歌碑を前面に出したいと思う。とくに、歌碑が存在する場所の近くには、レジャー施設である子どもの国や柳茶屋キャンプ場、鳥取市サイクリングターミナルといった観光施設が存在するので、人が集まりやすいと考えられる。したがって、それらの観光施設とセットで「歌碑ロード」として宣伝し、定期的なガイド活動とセットで注目してもらう。

★「歌碑ロード」



鳥取砂丘再生会議作成「鳥取砂丘中心探検マップ」を参考に作成

加えて、「ヒストリーツーリズム」の体験を形に残す試みとして、砂丘をはじめとする福部の自然や歴史等を題材にした短歌や俳句を、訪れた人たちに作ってもらう。具体的には、ジオパークセンター等の施設に「歌碑ロード」探索のための案内図と短歌・俳句作りのシートを設置し、訪れた人たちに自由に手にとってもらう。そして、希望すれば自分で作った作品を提出できるようにする。その後、集まった短歌の中から月に一回程度、地元の住民の方たちの投票によって優秀作品等を選ぶイベントを行ったり、パンフレットで紹介したりなどの取り組みが可能だと考える。

③歴史上有名な（全国的に知名度の高い）人物をメインに据えた名所の宣伝方法など

①で歴史的・文化的名所の紹介に特化したパンフレット作りについて取り上げたが、歌碑以外の名所についても、より観光客や町民の方々に興味・関心を抱いてもらうために、名所の宣伝方法に工夫を加える。（例：摩尼寺の「ひでひら杉」／駈馳山の名馬の歴

史／二つ山城→藤原秀衡／源頼朝／豊臣秀吉の写真を使って福部地域との歴史のつながりを宣伝するなど⇒歴史学習の題材にする)

おわりに

今回の学生派遣プログラムを通じて、私たちが住む首都圏とは全く異なった地域情勢を目の当たりにしました。福部町は「鳥取砂丘」「砂の美術館」という全国的に有名な観光資源だけではなく、家族皆で楽しく梨狩りのできる梨園や、他の地域には存在しない名物「砂丘らっきょう」、とても自然豊かで日本の魅力を凝縮した磨尼寺、多くの歴史的建造物や歌碑などが存在しており、とても魅力的な町でした。しかし、全国的に有名になっている砂丘や美術館に頼る面が強く、他の魅力的な資源を活かしきれていないようにも感じられました。私たちは、私たちの住む地域には存在しないような素敵な資源を持っている福部町はもっと活性化し、より多くの人を惹きつけるような町になって欲しいという思いで提言を行いました。私たちの提言が少しでも福部町の活性化に繋がれば幸いです。

また、調査を通して「人の暖かさ」に触れることもできました。調査に協力して下さった支所の皆さん、先生、ジオパークセンターやらっきょう工場、梨園の方々をはじめ、地元の方々はとても優しく暖かい人ばかりで、私たち学生の活動にも快く協力して下さいました。この「人の暖かさ」は私たちの住む都会ではあまり感じられないものであり、これから福部町が最も大切にしていけるべき魅力だと思います。県外から来た人たちには観光地や特産物だけではなく、このような福部町の「あたたかさ」にも触れて、もっとこの町を好きになってほしいと感じました。

3 日目に福部町でトラブルが起これ熟議を行うことが出来なくなってしまったことや、台風の関係で最終日の中間発表が中止になってしまったことは非常に心残りですが、内容の濃い調査や白熱したグループワーク、そしてちょっとした観光含め、全体を通して非常に充実した時間を過ごすことができました。福部町総合支所の皆様を始め、調査に協力して下さった皆様、そして明治大学社会連携事務室の皆様、貴重な時間をありがとうございました。